

アグリゲーターの主力化に向けた今後の ERAB 検討会の在り方（案）

2020 年 10 月

ERAB 検討会

1. 背景

工場等の大規模な需要、蓄電池や燃料電池等、需要側に導入された分散型エネルギーリソース（DER）を束ね、市場等に提供するアグリゲーションビジネスは、電力システム改革の進展に伴う各種市場の立ち上がりとともに拡大してきた。例えば、2020 年度に一般電気事業者から公募された調整力公募のうち、電源 I' には総約定量の約 3 割に当たる、128.9 万 kW のダイヤモンドリスponsが落札されるなど、DER は電気事業の中で一定の存在感を示し始めている。

DER は大規模電源と比して出力が小さいものの、①建設等にかかるリードタイムが短い、②短い稼働時間では大規模電源よりも経済性が高い、③起動に必要な時間が短いといった特徴を有する。また、数多くの DER をアグリゲートすることで電源等の脱落リスクを分散化することができる等、電力システムに従来電源とは異なる価値を提供することで、電力システム改革の 3 つの目的（①安定供給の確保、②電気料金の最大限の抑制、③需要家の選択肢の拡大）の達成に貢献することが可能である。

今後、DER・アグリゲーターの役割は、エネルギー転換・脱炭素化が進展するにつれて、ますます大きくなることが予想される。例えば、再エネ主力化に伴い、変動再エネの導入が今後も続く場合、必要な調整力の量が増大することが見込まれるが、その際、DER は一般送配電事業者等が調達する調整力の多様な選択肢の一つとして、安定供給に寄与しうる。加えて、FIP 制度の導入等を契機に、再エネ電源も自らインバランス管理を行う必要があるため、再エネ電源を束ね、インバランスの管理を設備保有者等に代わって行うアグリゲーションビジネスなどの活性化も期待される。

こうした事業機会の拡大を受け、今般の電気事業法の改正に伴い、アグリゲーターは「特定卸供給事業者」として新たに同法上に位置付けられることとなり、現在関連の審議会では詳細要件の検討が進められている。アグリゲーターを適切な義務や規制の対象とすることにより、規制の適用関係が明確化されるとともに、事業の信頼性を高め、ビジネス環境の向上に繋がることで、DER 及びアグリゲーションビジネスが更に促進することが期待されている。

2. 事業者に求められる心構えと今後の ERAB 検討会の在り方

こうした背景を受け、アグリゲーターが真に自立し、電気事業の健全な発達にこれまで以上に貢献するためには、まず個々のアグリゲーターが自分たちの役割が今後大きくなっていくことを自覚し、その役割に見合った責任を持つことが極めて重要である。また、業界全体でこうした責任を意識し、共有することは、業界全体の信頼を高め、結果、公共財としてアグリゲーターの長期的な利益にも繋がるものと考えられる。

こうした中で、ERAB 検討会は 3 つの役割を果たしていきたいと考える。

まず1つ目の役割は、他審議会等と連携した制度検討への貢献である。アグリゲーターには、2022年度から電気事業法上に正式に位置づけられる中で、特定の個社が電気事業の健全な発達、及び業界全体の信頼を損ねる行動をすることがないように、適切な規律が求められるべきである。他方、多様なDERを集約し、柔軟に組み合わせることで各種価値を市場等に提供するアグリゲーターは、大規模電源を有する発電事業者と同等に扱えない側面もあり、その潜在力を最大限発揮するための市場・事業環境整備が引き続き不可欠である。そのため、アグリゲーターが電気事業法上の責務を負うことになることも踏まえ、電気事業の健全な発達に資する形で役割発揮出来るよう、各市場や制度に関連する課題をERAB検討会で整理し、関連する審議会等に対し意見具申を行っていく。その中では、新たに検討が進められる市場・制度に加えて、システム改修などの時期等も適切に見極めた上で、既存市場・制度に関する見直し等も求めていくこととしたい。

2つ目の役割は、技術的な課題克服のための支援である。需給調整市場等、より高いレベルの要求が求められる市場に多様なDER・事業者の参入を促し、競争を活性化するためには、アグリゲーターが安定供給に貢献できるDER制御技術等を有することを、利用者である系統運用者等に対して証明する必要がある。そのためにも、今後の市場の立ち上がり状況を見据え、必要な事業者に対し、DER制御精度の向上や、より小規模なリソースの活用等に係る実証試験の支援等を行うことが重要であり、ERAB検討会を通じてこういった支援策等をPRしていく。

3つ目の役割は、アグリゲーションビジネスにかかる情報分析・発信である。DERを非常時等に地域で活用する配電ライセンスの導入等、アグリゲーターの事業機会は、その難易度も含めて一層多様化している。そのため、こういった新たな事業機会にかかる情報を一元的に分析・整理し、積極的に発信を行うことは、事業予見可能性を高め、新規参入の障壁を下げる上でも非常に重要である。また、DERを有する需要家等のアグリゲーションビジネスに対する理解を深め、協力を得ることも必要不可欠であることから、これらの広報活動をERAB検討会にて今後強化していく。また、エネルギーシステム全体の中でDERやアグリゲーションビジネスが果たす役割について、エネルギー転換・脱炭素化といった視点から、中長期的な分析も行う。

3. まとめ

ERAB検討会は、今後もアグリゲーションビジネスを行う幅広い関係者の意見を集約し、健全な電気事業の発達においてアグリゲーターが然るべき役割と責任を果たせるよう、①制度設計の検討、②技術的課題克服のための支援、③情報分析・発信という3つの活動を一体的に行い、他審議会等と緊密に連携し、アグリゲーションビジネス振興というミッションを達成していく。

その中で、多様化する事業機会等を踏まえ、必要に応じて、ERAB検討会及び下部WGの再編成等を行うこととしたい。

以 上